万　緑　平成２４年度河口湖南中第２学年通信 NO. 19
Ｈ２４．１０．２５　文責　小野　靖

『全力を出せた日』支部新人戦

バレーボール男子	対西浜中　２－０	優勝
バレーボール女子		優勝
ソフトボール	対忍野中13－９	優勝
柔道	対忍野中２－３	準優勝
	個人2位　渡辺秀作　　2位　井出麻乃	
剣道男子	団体　対忍野中３－２　対山中湖５－０	優勝
	個人1位　石原誠隆　2位　土谷一将　3位　天野龍宏	
剣道女子	団体　対忍野中１－４	準優勝
	個人2位　島ゆきの　3位　中嶋和奏	
野球	優勝　対河口湖北中　４－１　対勝山中　８－１	
バスケ　男子	対忍野中　99-14	優勝
バスケ　女子		
サッカー	対忍野中３－０　対山中湖６－３	優勝
ソフトテニス	男子　団体優勝	
	個人1位三浦・堀内　2位外川・伊藤　3位仲野・秋山	
	4位城之内・清水	
ソフトテニス	女子　団体準優勝	
	個人1位須原・中村	
卓球　男子	団体　準優勝	
女子	団体　優勝	
弓道　男子個人	1位　荒川広樹　2位吉岡甫久杜　3位日向匠未	
女子個人	1位　渡辺玲菜　2位小池美波　3位田辺千里	

今春の支部総体で3年生が素晴らしい成果をあげたことを受けて、新人戦も目のさめるような活躍ぶりでした。結果に裏打ちされるだけの練習や意識があったことを確認したいと思います。

ひとりになれる強さ

ロードレースから見えたもの

　秋晴れの中、紅葉にはまだ早い湖畔路を走るロードレースが先日１７日に行われました。PTAの役員さんをはじめとして、多くの保護者の方には沿道での誘導や安全確認にご協力いただきましてまことにありがとうございました。結果は以下に示す通りですが、結果以上に良かったことがあります。
　それは、ほとんどの生徒が自分の目標やタイムに挑んでいたことです。そして、その記録に向かって「一人になれる強さ」を体感してほしいと思います。この時期にこの行事をやることの意味は、体力や持久力を高めることもありますが、それと同じくらい「ひとり」でやることが大切だということをわかってほしいという目的があります。これからの人生、特に中学3年生は、これまで通りの道ではない、それぞれの進路を進むことになります。自分の希望と実力を見合わせて、自分の行く手を見つめていきます。その練習として、今日の１６kmがあったと思います。以下に優秀者の記録を載せます。

1位	205渡邊健吾	１。09‘５９”	202佐藤夏月	１。１３‘０４”
2位	206渡辺　歩	１。１０‘０４”	201小林佑菜	１。１３‘４５”
3位	201城之内零	１。１０‘３１”	201勝俣優花	１。２２‘０４”
4位	205石原誠隆	１。１２‘０８”	201勝俣恋花	１。２５‘３２”
5位	204小俣璃紅	１。１５‘３６”	206島ゆきの	１。２８‘０５”
6位	204外川文月	１。１５‘４８”	201渡邊海生	１。３０‘０７”
7位	204佐藤拓夢	１。１５‘５１”	202渡邊桃花	１。３２‘１７”
8位	201古屋　伴	１。１６‘０２”	204渡辺瑠理	１。３２‘４７”
9位	205荒川広樹	１。１６‘１４”	201野澤歩生	１。３３‘０３”
10位	202山中　聡	１。１６‘１６”	202坂本真緒	１。３３‘１７”

響け！合唱♪

10月31日・河口湖南中学校体育館

　今月３１日には湖畔親善音楽会が本校体育館で行われ、２学年が湖南中の看板をしょって、出場します。吹奏楽部も招待演奏しますが、学校の代表として演奏するのは、これがはじめてです。だから合唱委員もこれまで以上に本気です。直子先生も小松先生もそして、長峰先生ほか私たちも真剣です。なぜなら、昨日の認証式で俊一先生から話があったように、湖南中の何人かが「よい行い」をすれば、それはすなわち「湖南中が良い」ということになります。そして、その逆もあることを承知しておきましょう。そこで、合唱です。学年合唱として発表する「明日という日が」をぜひ『いいもの』にしていきたい。そのために一人ひとりの声と力、心を結集して取り組もう。
　以下に11月７日の合唱祭のクラス合唱曲と指揮・伴奏者の紹介をします。

201	HEIWAの鐘	渡邊　恋加	木村　美南
202	心の瞳	佐藤　夏月	渡邉　里奈
203	空高く	渡邊紫陽花	外川　志帆
204	翼を広げて	渡邊　　圭	渡邊　桃子
205	変わらないもの	渡辺　美咲	木口　桃花
206	春風の中で	渡邊千郁子	白鳥　優佳

※親善音楽会の２学年演奏は14:50分頃の予定です。あくまで予定なので、時間に余裕を持ってお越し下さい。

連載『樹光祭』

「時間を忘れた二日間」　　渡辺季莉

　樹光祭一日目の文化部門。私たちは命の大切さを劇を通して伝えた。その中に登場した一人の少女。その名はみどり。彼女は生まれてすぐにコインロッカーに捨てられてしまうというとても悲しく、かわいそうな運命だった。でも生きられるかもしれないと自分を勇気づけて生きる道を選んだ。だが、その運命の通り捨てられ、死んでしまった。
　私はみどりの強い心や諦めない心に、心を動かされた。劇を見る前は、命を大切にしようというようなあたり前な劇をするのだろう、と思っていた。しかし、劇を観てみると、命とは何のためにあるのかと思い知らされた。
　その劇は私を明るくしてくれた。今まで思っていた自分の短所や嫌いな部分。でも、劇では生まれてから腕をなくす子だっていた。その子を見て、自分がなぜかちっぽけなヤツだなと思った劇だった。
　この劇を通して、みんな勇気をもらったと思う。クラスも、もっと明るく元気になっただろう。命のはかなさや切なさを実感し、みんなの心にもちゃんととどめておいてほしい。来年の劇もみんなで力を合わせてがんばりたい。

「ソーラン節前打ち　絆のふもと」松浦雄大

　それは樹光祭前日の体育館準備の時、太鼓のメンバーで明日のオープニングでソーラン節の前打ち「絆のふもと」という曲を発表するための最終リハーサルが行われました。前日にもかかわらず、ものすごい緊張していました。ぶじリハーサルも終わり、明日に備えます。
　そしていよいよ当日。全校の人や来賓の方々が注目している時に、幕が開きました。最初はものすごく緊張していたけれど、最初の音の「カッ」という音で、嘘のように緊張がなくなりました。叩いている間は、楽しくてたまらなかった。最後の「ドンッ」という音で、開放感のようなものが一気に出ました。大成功という文字しか頭に浮かんでこなかった。今まで興味のなかった太鼓が、僕の中の大切なものになりました。
　太鼓メンバーは、成功して泣いている人もいましたし、笑顔が消えない人もいました。練習の時にあった先輩との壁もいつの間にかなくなっていました。本当にこのメンバーでやってよかったと思いました。最初は不安で「大丈夫かなあ」「失敗しないかなあ」とマイナスばかりのことを考えていたけれど、終わった後に、「やっていてよかった」「このメンバーで本当によかった」「練習は無駄じゃなかった」と自然にプラスの方の考えになりました。
　今年の樹光祭が終わって、新たに目標ができました。太鼓の大締めをして、全校のソーラン節を僕が引っ張っていくと決めました。目標に向かっていく今が、本当のスタートラインだと改めて思えた最高の樹光祭だった。